

## 英語で論じる力を、あなたの“武器”にする

——制限時間が迫る。面接官の視線が突き刺さる。言いたいことはあるのに、言葉が出てこない。頭に描いた構成が白い霧のように消えていく。沈黙、焦り、心臓の音だけが響く——。

これは、私が初めて英検1級二次試験に挑んだときの光景です。一次試験では手応えがあり、語彙もリスニングも十分通用する自信がありました。それでも面接室ではわずか数分で追い詰められ、合格はぎりぎりでした。

その後もさまざまな試験に挑戦しましたが、筆記は比較的得意でも、面接では毎回冷や汗をかきました。原因はただ一つ——「**即興で論理を組み立てる訓練**」が不足していたのです。

さらに学習者として痛感したのは、**十分な数のモデルスピーチや最新のトピックが手に入らない**ことでした。当時は、練習したくても素材が限られ、実際の試験に即した表現を身につけるのが難しかったのです。

英検1級の二次試験は、一次を突破した**英語の基礎体力**を持つ者同士の勝負です。それでも合格率は約60%にとどまります。なぜ「話せる」のに得点が伸びないのか？ その理由は明快です。英語力だけでは足りないからです。

必要なのは——**構成力 × 即興力 × 事例力**。

この三つがそろって初めて、「伝わる英語」になります。

私自身、大学時代から本格的に英語を学び、英語資格試験を通じて段階的に力を伸ばしてきました。その後、国際的な仕事や学びの場で討論や交渉を重ねる中で、「英語で論じる力」を鍛えることの重要性を実感しました。そして確信しました——**これは才能ではなく、鍛えれば誰でも必ず伸ばせる技術**です。

本書は、あなたの伴走者です。

豊富なモデルスピーチと最新トピックを盛り込み、繰り返し練習しながら自分の言葉で話せる力を養えるよう構成しました。英検1級二次試験を突破

する戦略はもちろん、その先で英語を武器に世界とつながり、自信を持って意見をアサーティブに発信するための力を手にしていただけるはずです。

英検1級はゴールではなく、未来を切り拓くための通過点です。合格の先には、自信を持って、より深く世界と関わる未来が待っています。本書が、その扉を開く一助となることを心から願っています。

最後に、本書の出版にあたり、企画・編集に携わってくださったベレ出版の綿引さまをはじめ、関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

浦 勇樹